

文 教 福 祉 委 員 会 会 議 録

1 日 時 令和7年6月19日（木曜日）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時16分

2 場 所 第1委員会室

3 出席又は欠席した委員の氏名

（出席）	委員長	溝 手 宣 良	副委員長	山 名 正 晃
	委 員	小 野 耕 作	委 員	仁 熊 進
	〃	萱 野 哲 也	〃	村 木 理 英
	〃	頓 宮 美津子		

（欠 席） なし

（その他出席者） なし

4 職務のため出席した議会事務局職員の職氏名

議会事務局長	小 原 純	同次長	日 笠 哲 宏
同主幹	関 藤 克 城	同主幹	岩 佐 知 美

5 説明のため出席した者の職氏名

市長	片 岡 聡 一	副市長	中 島 邦 夫
政策監	難 波 敏 文		
総合政策部長	入 野 史 也	政策調整課長	林 啓 二
総務部長	内 田 和 弘	財政課長	岡 真 里
文化スポーツ部長	柚 木 均	スポーツ振興課長	渡 辺 真 之
教育長	久 山 延 司	教育部長	江 口 真 弓
学校教育課長	村 山 俊	学校教育課主幹	伊 藤 隆 広

6 調査事項及び報告事項その結果

調査事項

（1）放課後児童クラブについて

報告事項

（1）そうじゃ吉備路マラソン2026について

7 議事経過の概要

別紙のとおり

8 その他必要な事項

別紙のとおり

開会 午前10時0分

○溝手宣良委員長 ただいまから文教福祉委員会を開会いたします。

本日の出席は7名全員であります。

これより、所管事務調査を行います。

それでは、調査事項(1)放課後児童クラブについてであります。過日3月21日に開催しました所管事務調査におきまして、この件について取りまとめを行ったところであります。改めて取りまとめの内容を申し上げますと、1点目、利用を希望する者全てが利用できるように努めていただきたい。2点目、人口、子どもの数の将来を見据え、建物管理や運営も含め、計画性を持って進めていただきたい。3点目、運営の仕方について、指定管理がよいのか、それ以外の方法がよいのかも含め、各クラブの運営に市として責任を持っていただきたい。運営の在り方については、今の状態で問題なければ変更する必要はなく、全てのクラブが同一方法でなくてもよい。このように取りまとめ、教育長から御答弁いただいたところでありますが、この際、市長から御発言願います。

市長。

○片岡聡一市長 御意見いろいろいただきまして、ありがとうございました。すみません、私の率直な考え方を述べさせていただきたいと思います。

放課後児童クラブのニーズは日に日に高まっておりまして、過去とは違うという認識を我々は持たないといけないと思っております。これは、私を含めて、こちらにいる当局側が放課後児童クラブの重さについて改めて再認識をするべきだと思っております。3点、それに基づいて申し上げたいと、私が言っているんでしょ、このとおりに言わないでいいでしょ。

(「これ、質問が……」と呼ぶ者あり)

○片岡聡一市長(続) いやいやいやいや、私の考え方を言えということですよ。だから、これとは違うことを言うかもしれませんが、私は、問いに対して答えますけど、全地域において、全小学校区において、放課後児童クラブは6年生まで全員行くと、受け入れるということにしたいと思います。1点目の全学年利用を希望する者が全て利用できるように努めてもらいたいという問いに対しては、全14校ですね、6年生までやりたいと思います。

それから、計画性、建設管理も計画性が必要で、人口、子どもの数の将来を見据えて、運営についても計画性を持っていただきたいということですが、それは当然のことであって、我々はこれに基づいてやっていこうとするものでありますけれども、まず計画性について、建物で、これは今、順次計画性を持ってやっておったつもりではございますが、総社東小学校であるとか常盤小学校であるとか、交通事故がございまして、即座に総社小学校の移転新築であるとか、そうやって順次新しいインフラを整備してきたところでありますけれども、さらにこれに加えて新しい6年制にするということであれば、新たな計画をつくり、順次不足するものについて新規に建設を急ぎたいと思います。予想されることとして、常盤小学校と総社小学校を校内敷地内に新築する場合、なかなか土地が狭隘なので、そこの部分については今の段階でこの委員会で私が言及する段階にまだなっ

おりませんが、これはぜひ皆様方にも、そして今の放課後児童クラブの方々にも知恵と意見を聞いて、新築に向けて新計画をつくっていきたいというふうに思います。1点お知りおき願いたいのは、現存施設を倒して2階建てにするとか、こういうのはそのときに得ていた国からの補助金を返還するということが必要になってくるために、お金お金じゃないけれども、非常にコスト高になってしまうということがありますので、現存施設はよっぽど老朽でない限りにおいては維持しながら、新しい場所に新しいものを建設せざるを得ないということになります。

それから、3点目の各クラブの運営に市が責任を持っていただきたい。地域性を考慮し、うまくいっているところ、伝統を踏まえながら、うまくいっていないところの運営管理に責任を持っていただきたい。責任を持っていただくという考え方で、その運営の仕方が指定管理がいいのか、指定管理以外がいいのかということをお願いしたい。ここについては、率直に現時点での私の考えを申し上げたいと思います。この設置主体でありますけれども、今、運営委員会委託システムで14小学校区をお願いしております。これは、私はそれぞれの委員会が非常に頑張ってくれていて、心から感謝を申し上げたいと思います。今の体制がゆえにニーズも高まってきたというふうに思います。考えられるのが、3択ですが、一つは今のものを続行する、それからもう一つは民間に委託する、そして3点目は直営で市がやっていくということでもありますけれども、私は今の段階では民間に委託というのはありだというふうに思います。ただ、教育委員会の現場のスタッフが各現時点での委託している委員会に問うたところ、このままで私たち頑張りたいという委員会が多数ございますので、そういう方々の権利まで剥奪して民間にせしめていくということは望ましい状況ではないと思いますので、各委託委員会との協議の上で、我々はもう手放したいので委員会はもう解散して市に委ねるとおっしゃるのであれば、そういうところがもしあれば、それは民間に委託するということにしたいと今の時点では思います。経済財政のことも含めての話になってきますから、できれば、理想を言えば、今の委員会に委託してる委託料、当該する学校の、と新規参入民間の投資額がイコールであるということ。これはやっぱり大きな様々な意味を持っていて、民間、多分イコールじゃ無理だと、1.2倍、1.3倍かかりますよと、その代わりサービス上げていきますよみたいなことを言うのではなかろうかと思いますが、そこで市内格差が生まれてきてどうするんだというふうに思いますから、現時点では委員会委託と民間投資委託はイコールであるべきではないかというふうに思います。

以上3点が問われたものに対する回答でありますけれども、現時点でこれから様々な予算案とか必要経費であるとか、そういうものを鑑みながら、6年制、全学区、そしてインフラの不足分は補いながら、計画性を持ち、さらに民間委託の希望学区についてはそれに応えていくということを是とし、基本姿勢として、今の段階での、この当該委員会からの問いに対して現時点での率直な私の気持ちを御説明させていただきました。

以上で、私からの答弁といたします。

○溝手宣良委員長 この際、当局から何か御意見がありましたらお伺いしたいと思います。いか

がでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○溝手宣良委員長 それでは、これより質疑に入ります。

質疑はありませんか。

萱野委員。

○萱野哲也委員 今日はわざわざ御足労ありがとうございます。直接市長じゃなくてもいいんですけども、来年で指定管理が切れて、替わりますよね、指定管理が。今日、多分呼ばれたのは、時間がないよと、お尻決まってるよと、もう指定管理どうするんだって。これから、放課後児童クラブのほうも募集も始まってますかね。まだ始まってない。始まろうとしてる時期だと思います。そういう、これから始まるんですよね。だから、こういう時期で、お尻決まってる、だからもう急いでるわけですね、我々としても。そちら側も多分急いであると思うんですけども、建物とかどうたらこうたらというのは後のことでいいですわ。だけど、これから民間にするのか指定管理、委員会方式にするのか、それもよく地元と御協議いただければ結構かと思いますけれども、今この段階で呼ばれたということは、こういう時期、時間的な問題で呼ばれてるということなので、早急に急いでいただきたい。どのような方針というか、どのようなお考えで進められていくのか。思いは分かりましたけど、それを実際に実務に動かしていかないといけない段階なんです。今、市長からこういう思いを聞きましたよ。だけれども、実際に事務方として今の思いをどのように動かしていきますか。もう時間ないですよ。

○溝手宣良委員長 教育長。

○久山延司教育長 萱野委員の御質問にお答えします。

今、全てのクラブに意向を、直接お会いしたり、またお会いできないところは電話で直接確認をしているところです。あと一、二、返事が返ってない、まだ考えさせてほしいとか運営委員会を開いて協議したいというところが一、二ありますが、そのほかのところは現状でいきたいという御意向をお聞きしております。そういう状況の中で、もし近日中に残った一、二のクラブからお返事をいただいて、意向をその上で再度確認して、民間というような御意向があれば、すぐその準備をして、民間が参入できるような指定管理で民間も入れるとか、それから完全にそこだけ民間委託にするとか、方法を考えてまいりたい。期間のことがありましたが、十分間に合うということで進めております。

以上です。

○溝手宣良委員長 萱野委員。

○萱野哲也委員 もう一点だけ。我々から、委員長から申入れした中に、責任を持ってほしいという提言がありました。その責任というのは、今までもずっと我々が文教福祉委員会でこの放課後児童クラブの問題、指定管理でうまくいってるのかいってないのかと言いながら、この法律、制度的にやっぱり教育部局が手が入られない部分があったじゃないですか。こことかみ合わなかった議

論、たくさんあったじゃないですか。制度は制度で法律上、基づいて運用をやっていく中で、権限のどこまで入れるかというのは難しいんですけども、そこを我々は、私はですよ、責任持つてほしいというのは、そういった見えない部分をしっかりと、今の委員会運営でもいいです、見えない部分をきちっとサポートすることを責任持つてほしいということを言ってるんです。今までの委員会でもかみ合わなかったことがあります。任せてるんだからもうその権限でやってもらうべきだというような御答弁もありましたよね。そうじゃなくて、届かないところ、見えないところにしっかりとサポートしていただいて、運営、委員会の皆さん方の職場環境であつたりとか、そういったところもサポートしつつしてほしいという思いだったんですけども、御理解されているでしょうか。

○溝手宣良委員長 教育長。

○久山延司教育長 責任を持つてということですが、これは今までも答弁してまいりましたように、責任の範囲というのはどうしても限られておりますが、責任の範囲じゃない、権限の範囲ですね。その範囲の中では、十分とは言えないと思います。本当に十分できているとは自信持つて言えない部分はありますが、我々、可能な範囲で、私も直接クラブへ出向いて助言をしたりということもしましたし、担当者が随時連絡を取り合つて対応しております。そういうことで、いろいろトラブルもあったわけですけど、我々、できる限りのことはしていきたい、我々の責任としてやっていきたいというふうに思っております。

以上です。

○溝手宣良委員長 頓宮委員。

○頓宮美津子委員 ありがとうございます。市長から6年生まで受け入れたいというお気持ちを伺いまして、あと放課後児童クラブの課題はスタッフなんですね。指導員がなかなか集まらない。なかなか募集しても来ていただけない。その辺の課題に関しまして、ハローワークに出してるとか公募してるとかということではなく、もう少しスタッフに大勢来ていただくための工夫といいますか、処遇改善もあるかもしれませんけれど、そういったところにも気配りをしていただいて、各運営委員会の本当のところの思いとか気持ちを聞いていただく、定期的にそのことを聞いていただくとか、そういったところにももう少し責任を、そういった面でも責任を持つていただけないでしょうかということをお願いしたいと思います。

○溝手宣良委員長 教育長。

○久山延司教育長 本当に6年生まで受け入れるということは、建物の問題と、それから支援員の人数の問題、この二つが大きいのしかかってくるわけですが。建物については市長のほうから先ほどお話がありましたが、スタッフについては我々もいろいろ今までも広報紙に載せたりしてまいりましたが、なかなか効果が上がらないというところでございます。SNSをこれから活用してやっていくという方法は、今、具体的な検討をしているところでございますが、処遇改善をするということは委託料にプラスして市が補填するような形になる、ほかに方法はないと思います。ま

たは保護者からのいただくお金を上げるという、そのほかに方法はないと思います。そういうことについて、お金に関わることについては、今後、検討してまいりたいというふうに思っております。すぐにはお答えできません。

以上です。

○溝手宣良委員長 他に質疑はありませんか。

村木委員。

○村木理英委員 この学童保育の問題は、近々であれば令和2年12月18日から令和3年5月10日の間に4回、旧のメンバーで、委員会で議論していただいて取りまとめを出していると。さらに、令和3年11月12日、令和5年8月2日にも議論をしていると。さらに、令和5年11月8日、令和6年2月7日、令和6年5月8日、令和6年11月6日、令和7年2月5日、令和7年3月21日で今日を迎えているわけです。委員会として非常にこの学童保育の問題、苦慮しているという歴史がうかがい知れるというところでもあります。私がこの委員会に参加させていただいて間もなく2年が経過しているというタイミングではありますが、総じて言えることはやはり全体的な計画性が見えてこないということでもあります。教育長から前回の委員会でも答弁いただけてますけども、児童数に対する希望率というものが変わってきていると。児童数に対して希望率というものはそう高くなかったと。それがだんだん増えて高くなってきているという現状があるということです。この現状に即した調査ができていて、それに即した建築あるいは運営ができていくかということに私は問題があると思うんです。例えば常盤小学校の例、総社中央小学校の例もありますけども、運動場が常盤小学校は特に狭いですよね。狭いところに学童保育が乱立していて、まさにベースキャンプみたいになっているわけです。どんどんどんどんこれが増えていくのかなということが非常に危惧されるわけです。先ほど市長の答弁もありましたけども、補助金をもらってるからうかつに倒せないということですよ。ということであれば、総社市の計画としたら、学童保育は将来的に必要ななくなるという計画の上に成り立ってるのであればまだ納得できるわけです。しかし、片や人口を増やそうと、子育て王国だというたてりややってる総社市が、そういう現状で、学童保育に対しては何か思い切った政策を打ててないように思えてならないわけです。恐らく今回の委員会に市長にお出ましをいただいたのは、市長にその部分をお尋ねしたいということが委員会としての趣旨だと私は思います。ですから、きちんと計画性を持って、将来の総社市、特に常盤小学校、総社中央小学校も今、人口増えてます。そういうところの将来見通しで、学童保育に関わる子どもたちがどのくらいの人数はいるものだと、それに向けて計画を立てているかどうかということがまず大きい問題だと思います。それと、いろんな学童保育の実態があって、地域だけじゃなかなかできないというところもあるでしょう。そういう問題もあります。これは全く問題が違うわけですよ。ですから、計画性を持って事業に当たっているかどうかで、教育長が答弁いただいています。なかなか動態調査が難しいと、利用者の希望率を計るのが非常に難しいという答弁をきちんといただいていますから、ということであれば民間コンサルタントでも入れてきちんと数字を挙げるべきじゃないですか。きち

んと数字も挙げられてないのに、やみくもに学童保育の建物を造るようになってませんか。それを教育委員会で全部数字も挙げて、将来動態を立てろというのはなかなか難しいことじゃないかと私は個人的に思います。教育長は非常に真摯に答弁されてますよ、これは実際。されてる、これは。でも、申し訳ないけど、教育長の範囲を超えてる、答弁の内容が。だから市長に来てもらってるんですよ。そこを市長、御理解いただきたい。よろしいですか。常盤小学校区は、今後どのような人口動態を持ち、常盤小学校の生徒が何人になり、学童保育に通う子どもたちの希望率が何%ぐらいになる。今後5年、10年、15年、どうなるのか、このベースを持って議論をしないと、全く議論にならないと思います。市長どうですか、お答えください。

○溝手宣良委員長 市長。

○片岡聡一市長 おっしゃるとおり。もう本当にそうしましょう。おっしゃるとおりなんです。だから、そうしましょう。ただ、人口推計を民間に行くのはどうかなとは思いますが、教育委員会とよく相談して計画立ててやっていきましょう。これは、僕は最初、冒頭述べたように、今までと違う、そういう認識を持って、学童保育の重要性。今でも僕は覚えているんですけど、阿曾小学校区放課後児童クラブを造るとき、どうやって造ったかという、場所がなかったんで、文部科学省は空き教室というのが基本理念で始まっている制度であります、空き教室なかったんで、体育館のステージの脇の跳び箱を置く倉庫みたいな部分を、跳び箱を取って、そこから始めようということからスタートしたような時代さえありました。今は違うんですよ。そういうものではない。やっぱりもっと学童保育というものに重きを置いて、認識を改めて、新しい計画をつくっていくということについては、それはもう村木委員おっしゃるとおりであります。常盤小学校とかの言及がありましたけれども、常盤小学校も今、僕は朝走ってたら、ザグザグの交差点、東から常盤小学校に、8時から8時20分の間に355人渡っていくんですよ。この所帯はどこに造りますか、どういう計画性を持ってやりますかというのは非常に難しい。難しいけれども、この将来類推をしながら、これはやろうと思ってますんで、ぜひ力を貸してもらいたいと思います。今までとは違うという認識を持って進めていきたいと思います。

○溝手宣良委員長 村木委員。

○村木理英委員 市長から御答弁いただきました。確かに教育委員会、一生懸命やられてます。教育委員会に将来の人口動態とか子どもの数の動向を調査する、それはもうもちろんです。教育委員会が調べる上で、私はそこはきちんと予算も立てて、教育委員会がきちんとした数字を挙げるのが目的ですから、これはよく教育委員会サイドと相談していただいて、きちんとした将来の人口動態、希望者数を当て込んで事業を進めていただきたい。常盤小学校だけではないです。これは総社小学校もそうですし、総社中央小学校もそうですし、市長が掲げておられる人口を増やしていくという市街化地域の小学校は、この異常なまでの学童保育の運営にいろんな面で困窮しているわけですから、そこはきちんと市で手だてを打っていただきたいと思います。全く同じ内容がほかの小学校で該当するわけではないですから、これは個々に丁寧に対応していただきたいと思います。

終わります。

○溝手宣良委員長 御答弁どなたからいただきますか。

市長。

○片岡聡一市長 これから時期的にまた教育委員会と詰めていきますが、最初の萱野委員の質問の4月1日の移行期に間に合うかという問題がありますから、例えばインフラ共にやるのであれば9月の補正予算要求にどこまで乗っけていけるかみたいなことにもなるかもしれませんので、そのときの御審議方、ぜひ御協力賜りたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○溝手宣良委員長 他に質疑はございませんか。

頓宮委員。

○頓宮美津子委員 来年度に向けて急ぎでって言われても、本当は今年度に4月から入る予定だった3校がなかなか建設がうまくいかなくて、2学期からとか、1年遅れたりとかってなりますけど、文部科学省が待機児童の解消等に向けた学校施設の活用等についてという通達が来てると思います。岡山市も建物が間に合わないので、取りあえずそれまでは例えば余裕教室では、余裕教室がないから大変なんだと思うんですけど、学校施設内の特別教室とか多目的教室とか、取りあえずそこを使って補いましょう、できるまではというような臨時の提案も文部科学省自体がされてるので、そういったことも含めて、とにかく新しく場所をというのいかがかなと、そういう計画もしっかり立てていただきたいと思います、いかがでしょうか。

○溝手宣良委員長 教育長。

○久山延司教育長 ありがとうございます。学校施設を活用してということですけど、今、中央小学校ですとか常盤小学校ですとか、そういうところは工期が少し遅れて、そのために4月時点で受け入れた子どもたちの居場所ですね、それを確保しないといけないということで、コンピューター教室を使ってないところがありましたので、そこを改修して、そこを使ったりとか、それから普通教室で空き教室があるところは空き教室を今活用したり、山手小学校なんかはそういうふうにしていますが、そのように活用をしております。管理上の問題が、教員の勤務時間外、土曜日の使用の問題、そういうところもあるんですが、そのあたりを何とか今のところ学校と相談しながら進めると、そういう状況でございます。

以上です。

○溝手宣良委員長 他に質疑はございませんか。

なければ、すみません、私より。

最初、市長の御答弁の中にありました、要は今の方式のままでいくのか、民間委託は選択肢であるということだったんですが、直営という考え方はもうないのか。ないのであれば、直営は考えられない理由を併せて教えていただきたいのと、あともう一点が、これは要は運営協議会、運営委員会、今の方式でしているところの問題点、ヒアリングをされるということだと思うんですが、要は現場でされてる方と運営委員長とまた一緒の場所でヒアリングを行うことによって、実は言いたい

ことも言えなくなっている支援員も多くいらっしゃるように私の耳には届いております。なので、ヒアリングの方法も気をつけていただきたい。今議会でちょうどハラスメントに関する条例が出てきたというふうに思うんですが、各クラブの中でハラスメントと言える状態が実は潜在化しているところがあるような気もいたしておりますので、そういったところも含めて、運営に市に責任を持っていただきたいという部分は、そうしたところで指導が及ばないからであり、それのみではないですけど、そういったことも含まれておりますので、そういったところにもちゃんと指導が行き届くのであれば、私は逆に無理に民間委託等をする必要はないんだと思うんですけど、それが行き届いていないがためにこういった事態に発展している。今日の村木委員の発言で言えば、議論がかみ合わないということになっているんだと思いますので、そういったことも踏まえて尽力いただきたい。そして、担当の方が多分、教育委員会でお一人でされてるんだと思うんです。助けを出す方はいらっしゃるんでしょうけど、基本的には1人体制でされてるんだと思うんです。そこもやはり改善をしなければ事務負担が多過ぎるように思いますので、委託のことが、直営は無理なのか、無理なのであればどうかということを最初に申しましたが、それらのことを踏まえてお教えいただきたい、御答弁いただきたいと思います。

市長、お願いします。

○片岡聡一市長 冒頭に私から直営について、それは委員の皆さんと一緒に考えましょうの話なんですが、率直に申し上げていいんですよね、ここは。決定権は持ちますか。持ちませんよね。率直に申し上げて、直営でやると教育委員会の事務量が増大されて、職能を超えてしまうという部分がありますので、それはこちらサイドは言いにくい言葉だと思いますが、今回、一般質問でも職員の配置であるとか様々テーマが出てましたけれども、これ、直営でやると教育委員会も回らないような状態に職員が追い込まれていくという部分があります。これは、職能を放棄するわけでは決してありません。精いっぱいやります。精いっぱいやって、やった結果として、直営でやるともう業務量オーバーになって他の教育委員会事項が回らないということが予想されるので、これは私のほうから答弁したいと思います。

○溝手宣良委員長 教育長。

○久山延司教育長 まず、ヒアリングの方法ということではありますが、これについては平素の相談体制も含めて検討していきたいというふうに思います。

それから、今、市長が事務負担のことを言うていただきましたが、今は1人でということなんです、純粹にこの放課後児童クラブの担当は1人ではありますが、もう一人はGIGAスクールが主の担当ですが、今はもう本当にこの問題にかなりかかっております。課としても全体で放課後児童クラブの業務を支援していくような、課長以下そういう方向で何とかやっておりますが、本当に直営にすると採用ですとか人事異動だとか給与事務だとかそういうことも新たに入りますので、相当数の職員が必要になるということになってきます。

以上でございます。

○溝手宣良委員長 では、他に質疑はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○溝手宣良委員長 ないようでありますので、この際、私より申し上げます。

本件についてさらに調査を行う必要がある場合は、委員間で自由討議を行う場を持ちたいと思いますが、いかがいたしましょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○溝手宣良委員長 ないようでございますので、それではこれをもって質疑を終結いたします。

本件については、本日はこの程度にとどめたいと思います。

市長におかれましては、ありがとうございます。御退出をいただいて結構でございます。

では、この際、しばらく休憩いたします。

休憩 午前10時39分

再開 午前10時42分

○溝手宣良委員長 では、休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、報告事項(1)そうじゃ吉備路マラソン2026について当局の報告をお願いします。

スポーツ振興課長。

○渡辺真之スポーツ振興課長 失礼いたします。そうじゃ吉備路マラソンについて御報告させていただきます。

先日、6月11日水曜日に第1回のそうじゃ吉備路マラソン実行委員会を開催いたしまして、大会長の市長と委員20名が出席されました。通常、第1回目の実行委員会では、前回の大会の結果と併せまして、前回の反省点を踏まえ、次回大会の日程や内容を決定していただいております。ただ、今回の実行委員会におきましては、先日5月7日の文教福祉委員会におきまして検討報告させていただいた募集人員2万2,000人から1万5,000人に削減させる案ありきではなく、実行委員会の中でしっかり議論をしてほしいという意見をいただきましたので、実行委員会の中で改めまして5月7日の文教福祉委員会で報告させていただいた説明を行った後、各委員からそれぞれの立場で御意見を伺ったところでございます。

資料の2ページを御覧ください。

こちらが各委員からいただいた意見となります。意見としては、フルマラソンやハーフマラソンの各種目、続けてほしいといったこと。それから、ランネットで80点以上の高評価となったのも、運営、ランナー、地域住民、みんな一体で積み上げたもので、引き続き続けてほしい。小学生、中学生ももっと参加できるよう、1.5kmや3kmも続けてほしい。そうじゃ吉備路マラソンは、種目が豊富で、幅広い年齢層の方々参加できるよい大会であり、ほかの大会との差別化にもなっている。ボランティアや沿道の応援など、総社市のおもてなしを県外から来られる方にPRできる場として大きな意義があるといった御意見をいただいたところでございます。

資料の3ページを御覧ください。

あわせまして、事前にお伺いしておりました各コーススポンサーの意見も報告させていただきました。全ての企業でおっしゃられていたのは、地元企業として引き続き協力、応援するということ。それから、フルマラソンをやめたらマラソン大会ではなくなるし、ブランド力も下がる。広報、宣伝効果は十分にある。また、十分にあると判断しているからこそスポンサーになっている。営業先で話をする際、宣伝効果を認識できるといった御意見でした。

以上の意見を出し合っていて議論していただき、現在の7種目は残した上で募集人員を1万5,000人にするということで全会一致で決定したところでございます。

資料3 ページ目の下段にありますように、まずはそうじゃ吉備路マラソン2026の開催日と種目、募集人数について決定させていただき、そのほかの内容については8月19日開催予定の第2回実行委員会で決定していくこととしております。

以上でございます。

○溝手宣良委員長 これより、質疑に入ります。

質疑はありませんか。

頓宮委員。

○頓宮美津子委員 ありがとうございます。2ページ、3ページに書いてある御意見ですけど、全て現状維持、続行という御意見ばかりなんですけど、文教福祉委員会であった意見、例えばもう少し縮小してはどうかとか、そういった御意見は全くなかったのでしょうか。全会一致というふうに言われましたけど、その辺はいかがだったのでしょうか。

○溝手宣良委員長 スポーツ振興課長。

○渡辺真之スポーツ振興課長 特にこれ以上の縮小といった御意見はありませんでした。

以上です。

○溝手宣良委員長 頓宮委員。

○頓宮美津子委員 その際、文教福祉委員会からこういう案が出ていますとか、これまで縮小ということも検討して、こういうデータも出しましたとか、そういった資料提示も全くなされてない。それとも、私たちの委員会に出されたものをそのままお伝えしたけれども、全くそういう御意見はなかったということなのでしょうか。

○溝手宣良委員長 スポーツ振興課長。

○渡辺真之スポーツ振興課長 5月の所管事務調査で出させていただいた資料、同じものを実行委員会でも配付をさせていただいて説明をさせていただいたところです。

以上です。

○溝手宣良委員長 他に質疑はありませんか。

村木委員。

○村木理英委員 文教福祉委員会の議会事務事業評価の結果はお伝えしていないということですか、実行委員会に。

○溝手宣良委員長 スポーツ振興課長。

○渡辺真之スポーツ振興課長 すみません、議会事務事業評価の結果、これも併せてお配りもして、議会事務事業評価でこういう御意見があった上で、所管事務調査において市のほうで考えた案、それから過去取り組んだこと、それからこれから取り組もうとしていること、そういったものも含めて全て御説明をさせていただいたところでございます。

以上です。

○溝手宣良委員長 他に質疑はありませんか。

仁熊委員。

○仁熊 進委員 ありがとうございます。2ページ、3ページと、各委員及び企業の意見が書かれています。これは、調査したお気持ちはよく分かるんですけど、これ、要は各委員というのは、ある意味、このそうじゃ吉備路マラソンに関わっておられる方の意見、それからもう一つ企業の、これ、ほとんどがブランド力がつくと、それから企業のためになる、だからこそ協賛金を出しているという回答なんですよ。これはまさしく意見を聞くまでもなく当たり前の回答だと思うんですけど、反対に僕たちが聞きたいのはこんな意見じゃなくて、本来、そうじゃ吉備路マラソンをやっていくのは本当に市民の思いなのかというところで私たちの意見を出しています。これに対する答えにはなっていないと思うんですけど、いかがですか。どういうふうにお考えになって、これを取られたんですか。

○溝手宣良委員長 スポーツ振興課長。

○渡辺真之スポーツ振興課長 各委員、コーススポンサーにとってのメリットですとか、各委員は各委員の考え方に基づいた意見をいただいたというところなんですけど、市民の方がどう考えているかというところはランネットの評価であるとか、そういったところで満足度が上がってきたりとか、そういったところで判断できているのかなとは思っております。

以上です。

○溝手宣良委員長 仁熊委員。

○仁熊 進委員 お考えをお聞きいたしました。でも、そういうお考えがあるんだったら、そのランネットに出ている統計をここに出すとか、報告していただくとか、それを分析したものを報告していただけると大変よかったかと思うんですけども、これは事後の、やった後の話になるんですけども、資料の出し方として、私はこれ、委員に問うた、それから企業に問うた、出てくる答えははっきり言って当たり前のことが出てきているのかなというふうにしかならなかったんで質問させていただきました。言われてることは了解いたしましたけど、今後、私の意見も参考にお願いしたいと思います。

○溝手宣良委員長 今の仁熊委員に対する御答弁はありませんか。今後、私の意見も参考にしてほしいということだったんですけど、それに対する御答弁は。

スポーツ振興課長。

○渡辺真之スポーツ振興課長 今後、報告等のときの資料については、そういった意見もつけさせていたこうとは思いますが、ただ、今回の報告につきましては、実行委員会で決定した内容について、そのときにいただいた意見についてということでさせていただいていますので、資料のつくり方としてはそういった形にさせていただいているところです。

○溝手宣良委員長 他に質疑はございませんか。

村木委員。

○村木理英委員 ちょっとよく分からないんですけど、ランナーでしょ。ランナーがそうじゃ吉備路マラソンはいろんな種目があるいいとか、市民の意見はどうなのかという。私たちは議会ですから、市民の代表であるわけですよ。代弁者なわけです。市民の意見として、議会が委員会として取り上げて、そうじゃ吉備路マラソンというのは経済波及効果はどうなのかと、大会の意義どうなのかということを申し上げてる。どうもその辺の話が実行委員会に伝わってないように思うんですけど、そこはいかがでしょうか。そういう目線でこういう意見が議会から挙がってるということをきちんと説明をさせていただいているかどうか聞きたいところなんです。参加者の意向を聞くんじゃないんですよ。地元としての意見を言ってるわけです、我々は。地元としてそうじゃ吉備路マラソンというのはこういうふうな評価ですよということを私たちは声高々に言ってるわけですから、どうもそのことが実行委員会に伝わってないように思うんですけども、そこは伝わってますか。私の意図することが受け止めていただけますか、いかがですか。

○溝手宣良委員長 文化スポーツ部長。

○柚木 均文化スポーツ部長 委員のおっしゃることに対して御答弁させていただきます。

私も委員の方それぞれ御挨拶に回りまして、議員の方からこういった議会事務事業評価が出ています。それに対して今度の実行委員会で諮りたいというようなお話はさせていただいております。そのときに、それぞれの実行委員会の方、立場立場がありますので、その立場での御意見を願いますということをお願いに回っております。そこで、話でありましたら、ここにありますように、こういった意見をいただいとんでもすけども、議会のほうからはこういった意見の提案、議会事務事業評価というのは説明させていただいて御意見をいただくようにしておりますので、その辺は確認させていただいております。

以上です。

○溝手宣良委員長 他に質疑はございませんか。

山名副委員長。

○山名正晃委員 今回の議会事務事業評価があつての実行委員会でしたけども、私は傍聴もさせていただいて、この案5になるんだろうなというのはもう大体分かって、分かったというか、あの雰囲気を見れば案の5で人数を減らす、五つ出されてましたけども、1から4までの議論も特になく、なりました。それというのも、言っても決定権は実行委員会にあるわけで、我々議会が議会事務事業評価を出して、当局のほうで、担当課のほうで練っていただいて、その案をお示しして実行

委員会のほうで決定するというものなんで、じゃあ実行委員会としてはもう定員数を減らすので決定しましたということでやっていくというのは、よくその中の意見でも分かりました。スポンサーの方の意見としても、それは伝わる部分ではあるんです。でしたら、ここの中の各委員からの意見でもある、じゃあ内容を精査していったらいい大会になるのではないかと、ずっと続けていきたい、今の種目を残してブラッシュアップしてやっていただきたいというふうな部分があって、じゃあこれから、今言っても全体が1万5,000人になって、今まで2万2,000人だったのがここに落ちました。ですが、実際のところ、今参加してる方というのは1万2,000人ちょっとでしたかね、の人数がいて、もうこの時点でもこの目標数には達しない。2万2,000人というその目標を下げたことで、1万5,000人まで下げたから、じゃあ1万5,000人を目指していくんだというのであれば、今の時点ではやはり1万2,000人ちょっとなので行ってないわけで、この内容をブラッシュアップしてやっていくんだというのをこの実行委員会でどういうふうにして考えて、この目標を目指していくのか。でも、これで行かなければ、また議会としては、いや、行ってないんだから、それは議会事務事業評価もこうやって出してるんだし、まだ縮小すべきじゃないんかという話も出てくると思います。それも、今回の議会事務事業評価を当局としては、私がちょっと聞きたいのは、当局としてはこの議会事務事業評価は今回のこの件で反映できたのかどうかというところと、それで1万5,000人という今行ってない目標を達成するのであれば、実行委員会とどういった協議をして、もちろん人が来てくれればそれはいいイベントになると思いますので、そのところをどうやっていくのかというのを実行委員会とどう話していくのか、この2点をお聞かせください。

○溝手宣良委員長 スポーツ振興課長。

○渡辺真之スポーツ振興課長 実行委員会として、これからまずは魅力的な大会にしていきたい。魅力を上げていくというところに重点を置こうと思ってます。そのために、所管事務調査、5月のときにも説明させていただいたマルシェエイドの拡充とかランナー給食の拡充とか、学生委員会中心となってそういうところを考えていきたいというのがあります。

以上です。

○溝手宣良委員長 山名副委員長、今の御答弁でよいですか。よくはないんだと思うんですけど。

山名副委員長。

○山名正晃副委員長 1点目のところをお答えいただけてなかったもので、議会事務事業評価としてはこれで飲めましたかというか、これが反映できましたかというところの点。

あと、魅力発信で、学生委員会だ学生委員会だって言うんですけども、学生委員会はマラソンの中でつくる学生委員会であって、実行委員会の中ではない。このメンバーの方々がやっている、何か関わっている、別にこのところに岡山県立大学の人がいるとか大学のこういう人がいるというわけではないものであって、実行委員会ではないですね。実行委員会の方々が何をしていくんかというところを、明確にはないんですけども、その2点をお聞かせください。

○溝手宣良委員長 スポーツ振興課長。

○渡辺真之スポーツ振興課長 すみません、先ほどの１点目の質問が抜けてました。

まず、議会事務事業評価について、これでできたのかというところですけど、まずは負担金の削減というところでは、一旦は言われてるところに対して対応、まずはできたのかなとは思っています。ただ、これからより今後どうしていくか、今回の結果をずっと続けられればいいということではなくて、その後についてはどちらかというと募集人員が一番ということではなくて、大会の魅力化を図っていくというところに今後重点を置いて取り組んでいきたいというのが一つ思いとしてはあります。

学生委員会はいくまでも学生が組織した委員会というお話でしたけど、その学生委員会の委員長も第２回実行委員会で委嘱をさせていただいて、この実行委員会の中に入らせていただくようにはしております。

以上です。

○溝手宣良委員長 文化スポーツ部長。

○柚木 均文化スポーツ部長 もちろん今回の議会事務事業評価のことは重く受け止めております。毎回、大会に向けて新たな取組、ブラッシュアップしながら魅力的な大会を今まで重ねてまいりましたので、今回は、2026はこれでやらせていただく。さらに2027、2028につなげるように、やはり効率的なもの、それから魅力的なもの、そういったものを、参加人数も含めてなんですけども、たくさん参加していただけるように、そういった大会に向けて頑張っていきたいと思っております。もちろん議会事務事業評価のことは毎回重く受け止めさせていただいております。

以上です。

○溝手宣良委員長 他に質疑はありませんか。

仁熊委員。

○仁熊 進委員 ありがとうございます。ただ、ブラッシュアップした大会、それから魅力ある大会というのは、私たちはそれがなぜやるか、中身が。要は言葉で表せば簡単なんだけど、実際には、じゃあ魅力ある大会が市民に何をもちたらすのか、そしてこの大会の意義が何なのかというところを突き詰めた上で議会として提言を出している。それについて、どのようにお考えですか。実際には、言われてることは分かります。魅力ある大会。でも、その魅力ある大会って、市民に何をもちたらすんですか。それを考えたときに、いやいや、これは今の現状では駄目だろう。市民に何をもちたらすのだろうという思いで私たちは委員会で議論してきたわけなんで、それに対して答えになってないんですけども、どうですか。どのようにお考えですか。

○溝手宣良委員長 文化スポーツ部長。

○柚木 均文化スポーツ部長 このマラソン大会を始めた最初の目的というのが、まず市民の健康の向上、それから総社市のPRという２本立てでやらせていただいていると思います。もちろんこの７種目のうちに市民の方がたくさん出てくれている種目、そうでない種目、あります。やはりフルマラソン、あまり市民の方は出てないんですけども、私も休みの日の朝、通勤ではないとき、6

時半頃通ってるときに、割と集団でマラソンしている人を見ます。ああいった方たちが出てくれるのかなと思うんですけども、よくよく考えてみたらそうではない。同じ日にあるマラソン大会、近くにあるマラソン大会、もちろん他市、他県なんですけども、そういうところに行かれてるんじゃないかと思っております。ほかのところもそうで、同じ日に世界遺産姫路城マラソンがあります。ですから、多分、総社でマラソン練習している方は世界遺産姫路城マラソンへ出るんじゃないかな。世界遺産姫路城マラソン、姫路の方で練習している方、コースはいつも同じですからね。そうしたら、そうじゃ吉備路マラソンに出るんじゃないかと。そういうふうに、市民の方の参加というのは、小っちゃいお子さんがいたら姫路市まで行くんじゃないかともう地元で、マルシェもあるということで参加していただくということで、フルマラソンとかハーフマラソンは割と市民の方じゃなくて他市の方、市民の方は他市に行く、往復というか、お互い行き来があるわけですね。そういうので理解させてもらいました。ということで、総社市のPRの点なんですけども、直接、総社市というあまり観光的な拠点施設がないところにおいて、1万人規模のマラソン大会、総社市が行うイベントなんですけども、マラソンが数少ないイベントのうちの、人数、1万人参加してくれるのは大きいイベントだと思っております。そういった意味では、他市から来ていただいた方が、総社市に行ったよ、お互いにマラソン大会で会おう人、それから友達の方、総社市に行ってきたよということで、かなりのPRになってると私は感じております。直接総社市に、マラソンに行ってもよかった、総社市がよかったんで、なら移住しよう、そういう人は中にはいらっしゃるかもしれないですけど数は少ないと思います。ですから、PRという点においては、マラソン大会、これは非常に総社市にとっては有益だと感じております。

あと、もう一つの柱である市民の健康増進なんですけども、マラソンも何もしないような市で、健康をしましょう。私もこの4月に文化スポーツ部長になって、マラソン大会に子どもたち出てるんかなというて聞いたら、800mとかそういった短い距離は結構出してくれると聞いております。そうしたら、次、大きくなって10kmとかそういうところに出ようという意欲が湧くんではないかと、私は自分で、この大会の担当部長としてそういうふうに確信しております。ですので、何もしい、はっきり言ってもう10kmマラソンだけやっても構わないんですけども、スポンサーの方、それから実行委員の方、話をさせていただきましたら、岡山県内にはフルマラソンをする大会が三つしかないらしいんですけど、そのうちの一つを総社市が担っている。そういった面ではすごく誇らしい気もしました。ですので、もちろん大会的な運営で、効率を目指して、住民の方の参加意欲を向上させるような何か方法を年々考えて、これからも頑張っていきたいと、私は皆さんを回らせていただいて気持ちを新たにしました。

以上です。

○溝手宣良委員長 仁熊委員。

○仁熊 進委員 ありがとうございます。その思いは分かるんですよ。ただ、その思いが分かった上で、私たちはトータルに判断して、個別の判断ではありません。トータルに判断して決定した事

項をお知らせしてるわけであって、それに対して今回の報告は、委員会が行われた後の委員会についての報告だとは思いますが、これを見てみると、議会で出た答えに対しての何か反論のような書き方にしか思えないんですね。なので、私が言いたいのは、報告として出すのであれば、いろんな角度から見た資料を添付していただきたい、その思いも含めて今後よろしくお願ひしたいと思います。いかがでしょうか。

○溝手宣良委員長 文化スポーツ部長。

○柚木 均文化スポーツ部長 そういうこと、次回出すときにはもっと広範囲な意見を聞いて出したいと思います。

以上です。

○溝手宣良委員長 他に質疑はありませんか。

なければ、すみません、私より。

委員からの質疑にもあったことと若干かぶるんですけど、特に今の仁熊委員のお話ですが、なので例えばスポンサーからの意見を聴取したのであれば、スポンサーになってくださってない企業の意見は聴取したことがあるのか、しようとしたことがあるのかといったところが気になります。当然、参加された方の意見を集めていращやるので、なぜ参加されなかったといったところの意見がやはり聞きたいんだということだというふうに思いますので、その点をお願いしたいのと、あと大会運営をするに当たって、魅力あるものにしようということの方向性が私も間違えてるとは思いませんが、そこにボランティアがありきなんだと思うんです。ボランティアの話も今まで再三出てきましたけれど、ボランティアを募集することをやめる必要はないと思います。しっかりボランティアを募集してください。ただ、特定の団体に対してボランティアの協力をお願いするのをそろそろやめていただけないかなと。要は、総社市として広くボランティアを募集すればよいだけなのではないかというふうに思うんです。総社市民の協力ということでいうと、交通規制を丸一日受け入れているようなところなんか多大な協力をされているんだと思うんです。だから、総社市民、本当に協力をしてくださってると思うんですけれど、プラス、ボランティアを何人出してくださいということが起きるんです。なので、それが強制じゃないよと言われても、各団体に何人ぐらい出してもらえたら助かりますという要請をするだけで、受け取る側は、じゃあ何人ぐらい出さなきゃいけないという話になってしまうので、そういった募集の仕方ではなく、ただ募集をする。広く総社市民、別に総社市民に限らなくていいんですけど広く募集する。集まった方で運営できるのであれば運営していただくでいいんだと思うんです。どうして各団体にボランティアの要請をするのか。特にここの協賛になってるような団体なんかは、間違いなくこれはほぼ強制的に、あなたのチームから何人出してというのが来ます。それが断ることができない状態になります。あまり言うとかの団体かが分かってしまいますけれど、もう分かってると思いますが、そうすると年間の予算、これだけのものがついとんだから、もう出さんよということも言われます。暗にですよ。なので、特定の団体に対してボランティアを募集するのをそろそろやめていただけないかと。ボランティアを募

集すること自体はいいと思います。広く市民に向けて募集をしていただければ。市民だけでなく、繰り返しになりますが、募集していただきたいというふうに思うのですが、このあたり、実行委員長、ここにいらっしゃることですし、どのようにお考えでしょうか。

副市長。

○中島邦夫副市長 2年か3年ぐらい前からこのボランティアの要請については委員会のほうでも言われていたと思います。その当時から、もう強制的なことはやめようということで、今現在やっております。もちろんお願いはするんですけど、人数的なことももう言わないようにしてはおりますけど、そういった各種団体へもう一切お願いをしないというのは非常に難しいかなと私個人的には思いますけど、内部で協議をさせてください、それは。なるべくというか、それはもう人数、何人出してくださいということは言いませんけど、今後こういった要請の仕方があるかを再検討いたします。

○溝手宣良委員長 私から。なので、先ほど聞いたことのほかのことは、じゃあ担当部長ですかね、担当課長ですかね、御答弁いただきたいと思うんですが。

スポーツ振興課長。

○渡辺真之スポーツ振興課長 参加しなかった方の意見というところですかね。こういった形で聴取できるか、そちらは検討させていただきたいと思います。

○溝手宣良委員長 再び私より。スポンサーとして名のりを上げられた企業へのヒアリングはできると思うんですが、多分広くそのスポンサーも募集してると思うので、それに応じられない企業と、あと市民ですね。これはパブリックコメントを募集する、そのパブリックコメントを募集してを広く周知するというので参加してない方の意見も広く集めれるのかなというふうに思うので、本当に総社市民にとっていいイベントにするためにはそこをしなければ、参加した人だけの意見を聴取していたのでは新たな参加者が生まれないんだというふうに思いますから、ぜひ取り組むべきだと思います。よろしく願いいたします。一応御答弁願います。

スポーツ振興課長。

○渡辺真之スポーツ振興課長 検討させていただきます。

○溝手宣良委員長 よろしく願いいたします。

では、他に質疑はございませんでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○溝手宣良委員長 質疑がないようですので、これをもって質疑を終結いたします。

本件については報告を受けたということにいたします。

以上をもちまして、本日の調査事項及び報告事項は全て終了いたしました。

これをもって、本委員会を閉会いたします。

閉会 午前11時16分